THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年一月二十五日

定價金四錢

女學雜誌

第四十九號

毎月三回發行

續文

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

〈女學叢誌〉美術論（文學士坪內雄藏君演述）●〈中外新報〉十數件●〈對譯〉泰西の箴誡○勿れ●〈列女傳〉齋藤孝の傳●〈雜記〉女子の敎育（矢田部良吉君演述）○夫婦大學○婦人の心得●〈新作物語〉巢守の妻第十三囘（春のや主人）●〈家政要報〉侍女の事○日用品諸相場●〈御伽草〉六人連の旅○數學問題○考物の題○前々號の解答●〈寄書〉外國語學の必要

女學叢誌

美術論

文學士　坪內雄藏君演述
木　山　艮筆記

此篇は去る十六日厚生館に於て催ほしたる同攻會學術講演の筆記なるが美術殊に小說の事は婦人に關係する所多ければ演者の一閲を乞ひて玆に掲載す

余は此席に於て審美學を講演せんと欲すれども諸君も知り給へるが如く審美學は哲學の一部分なるがゆゑ〻是を正面より論究なさんには餘りに理窟詰の演說となりて徒らに聽者の倦厭を來すの恐れなきに非ればば態と審美學の末葉ともいふべくして其一部分と見做すべき小說の目的に關する事につき演說せんと欲するなり扨て小說といへば從前は只遊戯三昧の如くに予世の人の思ひ做たるを近き頃となりては小說もまた美術の中に加はる事となりしゆゑ諸君に於ても豫じめ小說は繪畫音樂彫刻詩歌など〻同く美術の隨一に位せる事との心得あらんことを望むなり小說もまた繪畫音樂彫刻詩歌と同からずんばあらず語を換へて之といはゞ小說の目的は繪畫音樂彫刻詩歌の目的と同からずむばあらざるなり[illegible]に[illegible]へ彼の刃物といへる物の類樣々にして鉈あり庖丁あり出刃あり斧ありナイフあり小刀あり大星由良之助が置忘れたる赤鰯の如きものあり五郎入道が鍛へたりとぞいへる正宗の名刀あり其外膝切丸蜘切丸或は草薙の御劍もあればダマスクの劍もある如く種類いと多かれども其目的とする所は斬るといふに外ならず是れらの目的にして卽ち刃物の本質なりまた弓といへるもの〻類多く楊弓あり半弓大弓あり何束何人張とやらんいふもあり九郎判官の用ひたる弱弓あれば八郎爲朝の用ひたる强弓あり左れど其目的とそる所はたゞ射るといふに外ならずして弓の本質とする所は皆一なり彼の小說もまた之と同じく既に美術なりといはんには小說の目的とする所も繪畫彫刻音樂詩歌の目的とする所と同からずんばあらざるなり然るを小說は繪畫彫刻音樂詩歌とその目的と異にせりといへるは進ひたる論らひところ見ゆれ此頃世に小說論の盛になり來りつれど人々其目的とそる所の異樣なるそいとをかし左ればまづ一々其目的と

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

そる所を評論したる後に我が思ふ所の目的ハ斯ぞあるといふ事を述べんと欲するなり

余ハ近きころ伊豆相摸の地方を漫遊し新玉の年立返りて一月一日四方拜といふ日ゟ當りてハ恰も箱根山の麓なる塔の澤の温泉に宿りたりしが爲ともなくて徒然なるまゝゟ宿を立出て其邊なる小高き所に登りたるに一軒の楊弓場ありけり夏の頃ハ氣色ありて化粧したる女さへ居れる所と聞ゆれど今ハ何の風情もあくて楊弓場ハ按摩を生業となせるもの夫婦の守れるのみなればいと愛想なき事ながら兎まれとて立寄たり余ハ齡七八歳ばかりなる時母に伴なれて田舍の金龍山淺草寺ともいふべき所に詣で初て楊弓を翫弄びだる後ハさる事なくて過ぬ今ハありし昔の事ハ忘れたり弓取るそべをさへ知ざれど人の爲る事の爭でなし得られざるべきとやをら弓取て對面遙にうち見やれば前面に的ありて小さきもあり餘りに小からぬもあり又一層大なるもあり太皷ありてその上にハ幕をも張りたり頓てきりきりと引絞て兵と放ちたるゟマンマと誤ちてバサリと幕にぞ中りぬこハ口惜と放つ矢ハドンと音して太皷に中れりいで此度ハと再び三たび放つ矢ハ皆外れてあだ矢なり然るに我邊り近く坐れる温泉宿の僮が放てるハカチと矢音のせざるハなし的ハ幾個もありて幕といひ太皷といへる的さへあるに我矢の中らざるころ殘念あれと思ひしが退きてよく考ふれば的ハ斯く幾個もあるならで最も小きものこそ眞正の的なれ其外なるハ弓取る術に拙き者の失敗を慰むる爲に自から的の如くにころ思ふなれ最も小き的を除きてハ皆眞の的ならずして紛へるなりとぞ察したる

左れば小說に關することも美術に關する事も或ハかゝる事のならずやハ世の人々の目的とする所ハバサリと音する幕ならずばドンといへる的にハ非ざる歟世の論者の目的となせる所のものハ抑々幾個かある之を要するに左の四に過ざるべし

第一　小說を初めとし美術といふハ人の心或ハ眼を樂まするを以て目的とす

第二　小說ハ勸善懲惡世を諷し俗を嘲るを以て目的となす

第三　小說ハ人情風俗を寫しいだすを以て目的となす

第四　小說を初め美術といへるものハ人の氣格を高尙になすを目的とす

この四つなれどもこの四ッ果してカチと音せる眞正の的なるや否乞ふこれを論せん

（以下次號）

前號廿二丁の下六行なるハある同八行設ハ說の誤植

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

○御歌會始　去る十八日御歌會始めの御製ならびに詠進の歌ハ左のごとし

池水浪靜

御製

いけみつの上にもしるしよもの海なみ靜なるとしの始めハ

皇后宮御歌

のとかなるとしやたつらん大庭のみ池の岸による浪もなし

二品大勳位晃親王

あきらけき御代の鏡と池水のなみもうこかぬ風ののとけさ

内大臣從一位大勳位公爵　臣藤原朝臣實美　上

やすらけき年の始めのけふとてや御池の浪も靜けかるらん

侍從長正二位勳一等侯爵　臣藤原朝臣實則　上

君がよの靜けきはともしられけり御池の水の浪たゝすして

宮中顧問官從三位勳一等伯爵　臣源朝臣高行　上

朝日さす御池のみきハ浪たゝてひれふる魚もゆたに見けり

式部長官從三位勳二等侯爵　臣藤原朝臣直大　上

大御代の光とそへてあさつくひのとかに映る池のおもかな

題者點者

御歌掛長式部次官從四位勳三等　臣藤原朝臣正風　上

なみたゝむよハ夢にたにみさるらむのとかに眠る池の水鳥

講頌

正二位　臣藤原朝臣實德　上

みそのふの御池の水にみゆるかな浪靜なる御世のすかたも

（以下次號）

○服制に付思召書　我が皇后陛下にハ疾に我邦服裝の改良を思したゝせて西洋の女服を召させその標準を示させ服制改良の事を御躬行あらせ給ひたる事ハ屢々本誌にも記し參らせしが今また左の通り仰せ出されたるにより去る十七日宮内省より大臣勅任官華族の向へ夫々達せられたるよしなるが思食する御旨の行わたりて社會の改良に非常の勢力を與へん事露疑ふべきにあらずしていと有難き御事なり

婦女服制の事に付て皇后陛下の思食書

女子の服ハそのかみ既に衣裳の制あり孝德天皇の朝大化の新政發してより持統天皇の朝よハ朝服の制あり元正天皇の朝にハ左衽の禁あり聖武天皇の朝に至りてハ殊に天下の婦女に令して新樣の服を着せしめられき當時固より衣と裳となりしのば裳を重ぬる輩もありて重裳の禁ハ發しきさらば女子ハ中世までも都鄙一般に紅袴を穿きたりしに南北朝よりこのかた干戈の世となりてハ衣を得れば便ち着てまた裳なきを顧みること能ハず因襲の久しき終に禍乱治まりても裳を用ひず纔に上衣を長うして兩脚を蔽せたりしが近く延寶よりこなた中結びの帶漸くろの幅を廣めて全く今日の服飾をば馴致せり然れども衣ありて裳なきハ不具なり固より

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

舊制に依らざるべからずして文運の進める昔日の類ひにあらねバ特り坐禮のみハ用ふると能はずして難波の朝の立禮ハ勢ひ必ず興さゞるを得ざるなりさるに今西洋の女服を見るに衣と裳と具ふること本朝の舊制のごとくにして偏へに立禮よ適そるのミならず身躰の動作行歩の運轉にも便利なれバその裁縫に傚はんこと當然の理りなるべし然れども其改良に就て殊に注意すべきハ勉めて我が國産を用ひんの一事なり若し能く國産を用ひ得バ傍ら製造の改良をも誘ひ美術の進歩をも導き兼て商工にも益を與ふること多かるべくさてハ此擧却て種々の媒介となりて特り衣服の上にハ止らざるべし凡そ物舊と改め新に移るに無益の費を避んとするハ最も至難の業なりといへども人々互に其分に應じ質素を守りて奢美に流れざるやう能く注意せバ遂にその目的を達すべし爰に女服の改良をいふに當りて聊か所思を述べて前途の望みを告ぐ

明治二十年一月

○行幸行啓　聖上および皇后宮陛下にハ昨日御發輦京都へ行幸行啓在せらるべき處御延引仰せ出され更に本日午前七時御發輦在せらるゝ旨を仰出されたりと承はりぬ

○東京慈惠醫院の設立　我が皇后陛下にハ先つころも婦人慈善會の會員たる資格を以て伊藤伯爵夫人其他十八名の方々を宮中に召せたる事と本誌に掲げたりしが去る十七日にも同會員たる貴夫人がたハ午後一時半頃より赤阪御所へ參内ありて皇后宮へ拜謁を許され同會に係る事どもを言上ありたりと聞え我が皇后宮の慈善の事に思食厚からせ給ふハありがたき御事なり今また府下の諸新聞に東京慈惠醫院設立と題せるを見るに人生の不幸ハ貧且つ病むの甚しきに過るなし今之を救濟するハ人の至情にして社會の義務といふも不可ならず泰西諸國にありてハ富者仁人金を醵し此救濟の病院を設くるの慈惠ありて多くハ帝室を戴き或ハ皇后陛下の總裁せらるゝものあり今や輦轂の下にして此設置あきハ極めて遺憾なりとて在東京の大醫數名協同して東京有志共立病院規摸の擴張を謀り曩に井上伯に申稟する所ありしに伯ハ大に之を美として百方斡旋せられ夫人慈善會委員よりして右擴張の事を我皇后陛下に奏請する事となりぬ果せる哉皇后陛下ハ慈惠の旨趣と神妙に思召させ御嘉納ありて遂に辱くも同院と陛下眷護の下に置せ玉ふの旨御沙汰あらせしより同院の組織を改め更に東京慈惠醫院と設立せらるゝの美事を見るに至れり本院ハ舊東京

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

共立病院を以て之に充るものにして目下之を永遠に維持すべき完全なる方法を探究せらるゝ由因て皇后陛下には院事を親裁遊ばされ今般懿旨を以て一品有栖川宮御息所殿下を該院の幹事長に山縣伯爵夫人松方同夫人大山同夫人榎本夫人佐々木伯爵夫人鍋嶋侯爵夫人長岡男爵夫人樺山子爵夫人毛利公爵夫人戸田伯爵夫人を幹事に戸塚海軍々醫總監伊東侍醫池田侍醫局長官岩佐侍醫橋本陸軍々醫總監長與衞生局長佐藤陸軍々醫監緒方同石黒同長谷川非職元内務省五等出仕大澤醫科大學教授を商議員に高木海軍々醫總監を院長に實吉同軍醫大監を次長に仰せ付らるゝ旨御沙汰あらせたるよしとありけり

○養育院慈善會　府下の有志が發起せる同會は高崎東京府知事夫人其他の貴婦人紳商の婦人がたが贊成せられ今度愈々設立する事となり其大要を聞くに同會は毎年五月十三日に開く日數は三日間と限り會員自製の品（代價三圓以上十圓以下を）出品なしその上り高は殘らず養育院へ寄附するものなり會員は府下に住する朝野の婦人にして會場は其時々會議と開きて定むるよし斯くて高崎東京府知事夫人を會長に選び會員も三百名と定めたりしが既に滿員にいたりたりといふ又委員に選ばれたるは澁澤榮一緒方惟準沼間守一氏等其他の由

○華族女學校　の學監下田歌子氏は同校學科中へ和歌の一科を加へ時々生徒に和歌を學ばしめんとの意を以て其筋へ建議せられたりとかいへり

○女子共立職業學校　は昨今にいたり益々校舍の手狹となりしゆゑ他へ移轉すべしとて轉地を尋ね中のよし

○元園女學校　麹町區なる同校は近來大に生徒の數を增し校舍も手狹となり且つ破損などもあるより近き中に煉瓦石を以て新築する筈なりといふ

○幼稚園　芝公園地なる同園は近來貴顯の幼女方多く入園あるが爲め殊に盛大となりたる趣きにて去る十七日には伊藤伯爵夫人その他の貴夫人が臨まれ同園の幼稚童女が新調の唱歌を唱へ中々賑はしかりしよし

○佛語學校　下六番町の同校はいよ〱去る十五日開校あり校長鍋ケ江祿子氏の演述ありたる後海軍御雇ベルタン氏の夫人は近來佛語の廣く各國の貴婦人中に行はるゝ由を述べて本校の開校を祝しその他二三の婦人がたの祝詞等もあり近頃の盛會なりしよしに聞く

○編者曰す　本誌には記事多くして〔學藝一班〕の欄を措く事能はず次號に埋合せをなすべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎對譯

(甲)㊀悪き㊁稽古ハ㊂速に㊃㊄學ばるゝ(乙)㊀信切ある㊁語ハ㊂怒リヲ㊃冷す

(勿れの語譯)㊀化粧箱㊁の㊂用ひニ㊃由テ㊄自然㊅の㊆婀娜なる事ヲ㊇添る㊈勿れ●㊀新鮮なる㊁空氣㊂運動㊃朝㊄浴㊅而テ㊆適當なる㊇食事ガ㊈自然の㊉自身の(十一)色ヲ(十二)頰ニ(十三)まで(十四)與フ(十五)可(十六)而て(十七)一の(十八)其他の者ガ(十九)或ル(二十)眞正の(二十一)美ヲ(二十二)(二十三)持ぬ」●㊀大なる㊁適宜ヲ㊂持テ㊃除㊄菓子類㊅或ハ㊆其他の㊇甘味もの㊈於テ㊉放恣なる(十一)可らず(意譯ハ雑記欄内の終にあり)

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) A evil lesson is soon learned.

〔意譯〕悪き事ハ直に覺える

(乙) A kindly word cools anger.

〔意譯〕情けある一言ハ怒りを冷す

DON'T (NASUBEKARAZU).

Affectionately addressed to Womankind.

DON'T supplement the charms of nature by the use of the colour-box. Fresh air, exercise, the morning bath, and proper food, will give to the cheek nature's own tints, and no others have any true beauty.

DON'T indulge, except with great moderation, in confections or other sweets.

◎列女傳

○齋藤孝の傳(前號の續)

むかしの人の歌にいかでかく宿も定めぬ泪のうへにうきて物思ふ身となりけむと遊女のはかなき身のうへを思ひやりてよめる如く夕べ〳〵に粧ひたてゝ待つともなき人を迎へ別れうくも思ハぬ人をも朝ごとに泣て送りこゝに年月をかさぬるほどに孝心ふかき者といひ心ばへ優しき者と評判せられて漸次なじみとある嫖客も多くなれば月々生計のたすけにもと古郷へものと送るとも心のまゝになるを歎きのなかの悦びとして父金八の無事なるだよりを樂しみにあかし暮しぬ斯てあるあひだにふと通ひ初て隔なくかたらふ人と宿世如何なる縁にやいと深く思ひかハして百年の末までも變らじと契りしよ其人もお孝のはかなき身のうへを聞きて憐れに思ひけむひとしほ萬に心つけて親切にもてなしけりゝおのれハ此里遠からぬ置賜通り二町目に小間物と商ふ安部春次郎といふものにて家にハ双親もなく只ひとりなれば此比の僥倖にふと遊ぶこゝろよなりて斯繁くハ通ふものゝ何時までかハ遊び續けうるべき假の契と思へばさても有るべけれど互に眞の名とも知り心を

四十七

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

もあかし合ひたる上ハ今更に絶べきこゝちこそせね然らば貯蓄の盡さぬさきに身の代と償ひて苦界とはなれさすべく思へど他に契りたる人などハ無きかなど懇切に云ばお孝ハ其志しの厚きを悦びつゝ斯る流れに漂ふ身のさる深き人ハ絶て無れど故郷にのこれる父の許しなきに所縁さだむるハ快からねバひとたびの音信して其返辞のさまによりてこそ御心にハ従ひ侍るべけれどといへば春次郎も實にもとて暫時待つほどに金八より消息してさる情深き人の救ひとらむとあるを辞まむやうもなければ疾々御心のまゝになるべし田畑の事の少し暇あるやうになふバおのれも必ず訪問べければ再の便に告知らせよかしなど細々と書てあればお孝ハ春次郎にも斯といひて聴て此樓を出るやうになりぬ春次郎ハ誰に心置くべきにもあらねば直にわが家に移らせつゝ改めて金八へ音信やるに彼方にても久しく逢見ぬ娘の所縁定まりぬと聞てさて過むハゆかしくも心もとなくも思ハれけむ急ぎ旅裝して訪ひ來れバ茲に初めてかたばかりながら婚姻の式を整へつゝ聟と呼バれ舅といはれ祝酒に疲れと忘れて四五日逗留して歸りぬさて後ハ相思ふどちとハいへいと睦しく世を送りしが從來春次郎ハ小間物を仕入れて在々諸所の花主を廻るを活業とすれば荷物と路費とを准備し留守のまの事どもよく心得させてそこはかとなく旅立しに三月許ありて或方よりおこせたる手翰を見れば名ハ唯ながら手の太く異れると訝しみつゝ急ぎ披き見れば云々の所に悩み臥して日を經れどもおこたらず只重りゆくのみなれば疾迎への人おこしてとの事にお孝の驚きいはむ方なく人ひとり二人雇ひて自らも引添ひて往ぬ思ひしよりハ面痩ていと頼み少なに見ゆると辛うじて連歸りつゝいたはり看護さま筆にもこと葉にも盡しがたし斯て三四月を送るほどに病悩ハやゝ癒ざまに見えたれど蛭子の神にやあえけむ足たゝずなりて厠にかよふだにも心に委せず醫師も聘ておこたらせ賜ふらむ此うへハ只力づかむやうに養ふより外にせむすべなしとて捗々しくハ藥もとらせぬハ漸朝夕のたづきも思ふさまならぬを早う見とりてなるべし斯てまた半年ばかり打過しかばちとの貯蓄もなごりなくしはてゝ實にいと貧しう心に委せぬ事多くなりゆけバ今少しおこたらせて何處の温泉にか浴せさせバやと思ひしあらまし事もあだになりゆくを臥ながら見る春次郎のこゝち如何ばかり甲斐なく苦しかるらむこの足のとてもたゝじとならば存命ゐてよしなき物思ひさせむより疾く死ぬこそまさらめなど涙ながらにかきくどけハお孝ハわざと笑顔つく

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

りてさあ歎き賜ひろ生命といふ寶ありてこそ嬉しきときにあふたのみハあれこれなくハ黄金を山と積むとも何の樂しきことの侍るべきなど種々よいさめ慰めつゝわづかバかり賣殘せる小間物ハいふも更なりおのが髪飾りのものなどまで賣拂ひてちとの金としけゝこの近き町の旅人宿の主人ハうせて營業するものなきが夜具をはじめ總て附て貸すといふと借受てそこに移りつゝ病む人を靜なるところにうち臥させて少婢と附添せミづからぬ行かふ旅人をとゞめていと懇切にとりまかなへバ豫てより奇特なるものと噂あるお孝の斯店にありて立ち働けバ忽ちに評判高くなりて知るも知らぬを宿もとむれば思ひ懸ぬ幸多くて四五月がほどに三

四十九

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

四人の男女をも遣ふやうになれば今ハ心安しとて春次郎をある温泉に浴させしに三週ばかりありて全く足も立ちぬとて歸さにハ駕にも乗らで歩をしかバお孝ハ迎への人出して迎へとりて扨いふ樣今の營業の幸ありて斯ゆたかにハなれど長く人の家借てあらむハ心苦しければ買取て我有にせむと思へどさばかりの金ハ頓に調ふべくもあらずされど父にとひ謀らばせむやうあらむといふに元來おことの力ひとつにてせし事なれば兎も角もといへば然らばとて金八を呼迎へて彼さきに買し田畑を人に讓らせて其代にて此家をかひ金八をも呼迎へて此旅人宿のうちに住せ多年の營業をかへてハ立栄えても口惜くおぼさるべしとて更に隣の家と買ひ添へて小間物の店を開かせ自らハ旅人宿の方にも此方にも心をくバりて營業をすればゞ春次郎もありしまゝに花主をも廻り或ハ店にもありて商ひに怠らぬほどに三年バかりにてもとに優れる富有の身となりぬとぞ世に親本夫のために身を遊び女のうきたる流れに沈むるハ多けれど末まで斯く行とほりて二つの家を興したるハいと珍らしう思ハるとて其近き里人より詳に告こしたるが如何にも此お孝の如きハ類多からぬなるべし

前號此欄廿八丁の下七丁目「るゝとの、」ハ「るゝと。の」の誤

◎雜記

○女子の教育(前號の續き)　矢田部良吉君演述

幕府の末造に當り伊豆國韮山の代官にて江川太郎左衛門といへる人あり此人は我國に始て西洋流の兵式を輸入し當時頗る卓見家の聞えありしが余の父なる卿雲の主人なりしを以て余の母が嫁したる時に後來心得の為にとて一通の書簡を贐に贈られたれば母ハ此書簡を卷物となし終始之に依て夫に事へし由なるが余が娶るに及てまた之を余の妻に傳たり此卷物を一讀すれバ江川氏の如き卓見家の聞えありたる人ハ封建時代に於て女子の教育につき如何なる説を有せしやを推知するに足れりその書簡にハ

一夫を天といたし候事は誰も辨へ居候事にハ得共天を怨ミ天をいとひハ迯逃可申樣無之ハ是等の儀に心をつけ能々相事へ可申候凡そ門内の治ハ恩義を掩ひ候故心易立も出來いたし候間敬愼專一心懸可申事

一男ハ剛を以て德といたし女ハ柔を以て用といたし候事に候間身を修ハにハ敬にしくハ無之つよきを避ハにハ順にしくハ無之事故敬順の道ハ婦人の大禮に候扨誰しも最初嫁ハ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

節ハ何様にも厚く可心懸積りのところ追々居馴候よしたがひ前にも申候心易立等出來候ものに候間精々心を用ひ差出ヶ間敷儀不足ヶ間敷事共有之間敷總して足ことを知り堪忍専一ニ心懸我事ハ都て扣目々々といたし可申凡そ事に直なると曲れるとハあるなれども是ハ直是にてハ曲れる抔申す時ハ自然高聲にも相成終にハ夫婦申爭ひ等出來候ハ畢竟平日前條の次第不相學故の事に候曲て從ふは女の道に候心得可申事

一夫留守の節客來有之バ右の段申斷可申候若無據儀にて座敷迄通候ハヽ誰にても側に差置差向に不相成様精々心附可申候凡物腐せず候得バ蛆生不申人も疑はれず候得バ讒も入不申候能々心得可申候事

一纔なる功に傲候ハ無敎婦人の振合に候間能々心付可申よろしき儀有之候共自負の躰無之不行届不調法抔と被申共我方を顧候階梯と心得聊も不本意に存申間敷事

一下女共の申し聞候儀を取用申間敷人の噂等申儀心付可申事

一衣類其外都て手懸候ものへハ念入可申事

右ハ此度縁付候に付最初よりの心得かた大切のものに候間認め差遣すもの也

家政の儀に付他家幷に里方の振合を例に引彼是申間敷且自分申出候通に不相成候迚如何の顔付又はブリ〳〵いたし候事共甚敷夫たるものゝ氣色に障るものに候是等の儀ハ都ての事ニ勘考いたして心付可申候且對夫一旦ハさからひ候共終にハ致方無之候間最初より從ひ居候方女の道にもかなひ神妙に心得可申事

と記されたれば江川氏の説も亦貝原益軒先生の説と同一ニして中にハ萬代不易の名言もある様に思へるれども矢張儒敎主義に出たるものにして今日の時勢には適當せぬ處も多るべし維新後西洋の事物を益々我國に輸入するに及で敎育の主義方法も漸く西洋より輸入し來りて最早今日に至りては大中小學校師範學校及び幼稚園等の設ありて殆ど文物粲然章を成すの有様を呈出し日本開闢以來今日の如く敎育の盛なるときは未だ曾てこれあらざる程なるにより随て女子の敎育上にも世人大に注意する様になりて五六年前まではハ唯漠然女子の敎育を改良すべしといふに過ぎざりしものも今日に於ては精確なる思想を有するに至れり然れども實地ニ就て各女學校の有様を視るにその敎授の方法ハ男子を敎育するものと同一にして其他學科といひ授業時間といひ男女躰質の同じからざるにも拘らず

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

又成長の後其職分の異なるにも拘はらず男女の間に於て差したる區別を爲ざるが如く且つ敎場若くは寄宿舍の如も男校の構造も少も異ならずして此等ハ實に不完全なる敎育法なれバその結果ハ遂に女子の固有せる溫和優美なる性質を發達せる事に於て大に妨害を與るに至らん寔に歎息すべき事共なり近頃余の友人服部一三氏及び手嶋精一氏等は相謀りて女子職業學校てふものを設立せしがその目的ハ女子をして他人の力に藉ずして自ら生計を營むの道を立しめんと云ふにありてその授業の方法の如きも甚だ宜しきを得たるものなれどもこれハ唯僅に或る一部分の女子の爲めにするものにして一般女子の敎育に適當せざることは發起人の諸氏といへども固より覺悟せることなるべし余は斯のごとき一部分の女子の敎育につきてハ敢て論究せざれども一般女子の敎育につきて陳述せんに元來女子ハ早晩婚嫁すべきものなれば一般女子の敎育を改良することこそ實に肝要なれ而して女子ハ總て性質脆弱にして男子の比ひにあらざるがゆゑに幼年なるときに於てその精神の活潑なるに任せて男子同樣に學問を勉強するときは身體の發育を害するものにして甚しきは女子が男子同樣に勉強して或は醫者と爲り或は代言人と爲り或は專門學者となりて身体に格別の害を覺えざるにもせよその嫁して母となるに及びてハ常に身體の思はしからざるの乃至はその擧けたる小兒の虛弱にして充分の發育をなさゞるの或ハ曾て勉强の爲めに生殖機を充分發育せずして全く子を孕まざる等の事あるハ已に歐米の經驗に據て明かにわかり居るなりそれ故に女子にして代言人とならんとか著述家とならんとの乃至は醫者とならんとかいふ如き太だ高大なる志を抱き他に婚嫁せずして自己の力に食んと覺悟する者ハ格別にして此等の女子ハ男子同樣に高等の敎育を受けて夫々專門の學を修ねばならぬ譯なれども若し一般女子の敎育をバ斯の如く高尚になしたらんには後來日本社會に如何なる弊害を生ずるや未だ知る可らざるなり是を以て一般女子の敎育ハ先第一に其嫁して生涯身體の健康を保ち健康なる小兒を擧げんことに能々注意せざる可らず尤も昔者女子の敎育は洵に簡單なるものなりしからば此等の事に付て意を用ふる者ハ曾なかりしなれ共今日となりては女子の敎育中に種々の學藝を雜える樣になりてければ右の點に付て特に注意を要するなり且余の考る所を以てすれば女子ハ其天性に戻て有名なる政治家となり又ハ高尚なる學者と成て人の母となるべき職分を拋棄せんよりハ寧ろ有名なる政治家或は高尚なる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

學者等ゟらい人物を産む事と勗むるを以て萬々勝れりと思ふなり客年八月英國學術奬勵會に於てドクトル、ウイグルス、ムール氏ハ婦人の教育に付て一場の演説と爲せしが其演説中にベーコン氏の阿母ハ頗る才能ある婦人なりしも「ノーヴム、オルガーム」を書ざりしが此書を著はしたるベーコン氏を生たりと述られしに又ミッセス、リントン女史ハ此語と繼でゲーテ氏の阿母ハ「ファウスト」と書き得ざりしも此書を書きたるゲーテ氏と生て能く教育せしなり凡そ世界の英名なる人物の傳記を讀むに此等の人物ハ大概賢母の腹より出たるものにして賢明なる父ハ賢明なる子を持ぬことハ多けれども賢明なる母ハ總て賢明なる人物を生ものなりと云はれしが此言果して眞ならば婦人の教育ハその身體もその精神も人の母たるに適當する樣よ養成すべきものにして性理學上より視るも社會學上より觀るも女子の教育と男子の教育とハ大にろの趣を異にせざるべからざるあり

（以下次出）

前號二行目併説中ハハにの誤十九行目適當せるハせざるの誤

○夫婦大學（第四十六號の續き）

如何に性質の良かればとて未だ充分なりとすべからず自ら温和なる性質ならば足れりとして之に誇る事あらんにハ乃ち温和ハ一方のみにてハ足らず夫婦同樣の徳を養ふべきものたる事を忘れたる人といふべし一方のみ良き性質にて他の一方の惡しき性質を矯めんとする時ハろの方法の善良ならずんばあらざるなり若しその方法善からざる時ハ惡しき性質と矯直そ事能はざるのミならず却て干渉のた允にその惡しき性質を增長せしむる事あるべし良人たるもの妻たるものゝ頭にあるべき筈なるに世よハ妻の方良人よりも勢強きものありこれその妻の過ちにハあらずして良人の斯ならしめたるがゆゑなり妻とば善き道に於て良人を導き決してその狀態を表はさしむ可らず妻たるものハまた折を得て良人を補佐するの手稼と盡すべしさりとて我ハ顏に良人を指圖して世の人に斯くと悟らしめざらんことを勉むべし（未完）

○婦人の心得（對譯欄内勿れの意譯）

自然に婀娜なるが上に化粧して嬋妍を添ゆる事ある可らず只新鮮なる空氣を呼吸し身體の運動と勉め朝の間に浴をなし食事と適度になす時ハ頰の先に自然の美色を生ずべしこの他に眞正の美と粧ふべき方法なし

適宜なるハよけれど餘りに菓子の類その他の味ひ甘きものを多く食すべからず

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○巣守の妻　第十三回　　春のや主人

早きものは月日なりその年も己に五月雨空となりぬ盗むが如き月影は間々松が枝に懸れども乾かぬは袖の身を知る雨なり越野は月増に心弱くなりゆき今は其むかしの心ざまもなし兎もすれば我子の噂今ごろは此節はとお民を對手にして同じやうなる愚痴賤の小手卷の繰返しても互ひに五月蠅とも饜きはてぬとも想ひず打泣き打笑みて噂すなる巣守の親鳥の心細さはもとよりさる事と思はるゝものから雛鳥の不憫げなるが終日終宵傍を離れずいとまめ〱しくかしづきてあれば流石に氣と慰むる便宜はありけん只徃る年もこの年も巣守の妻鳥で日を送る身は如何に不樂しうも心細く又悲しくもつらかりけん思へば三年程前つかたまでは纔に形体の苦をしりしのみ精神の悲しさは知らざりけるを今ころやう〱に思ひしりけめ人の家に嫁ぎて後の悲しさと乙女なりしころの苦しみとは絶えて較べ得べきものにあらず乙女のころは苦樂の瀬戸なり未定めは禍福の港なり嫁がざる前に忍ぶべきは忍ぶべし迷ふて此時に忍ばざれば遂に忍びがたき不幸を忍び空しく苦みの海にや沈まん

心の清かなることと初春の雪の如く淡々しくもあどけなかりし身がはじめて悲しみといふ事を知りて人知らぬ夜半に袖は濕せど斯と誰人にうち出して語らん姑ぎみに訴へんには笑止やいたづらに苦勞を増して涙の露の數を置添えたまはん心と明すべき親族もなければ愁ひを語らふべき眞の友もなし自ら問ひ自ら答へ我を怨み我をそしり空のみながめがちに日を送る程に生憎に來歴のみ思ひ出されて日増におのが身の非をのみぞしる「お就眠あそばせ」と棄せりふを殘しておのれも夜具ひきかつぎても眠の神さへに我身をイヂメて眠らせさうにしてたやすくは寐かさず亞米利加の夢龍動の夢ア、世の中に夢がなくばと夢だにこのごろは苦しうなりゆく今宵は寐ずもがなト寐返りすれば怪しや姑女の目覺たるにやあらん「何を馬鹿な事を云々」トうめく聲ぞチヤと我しらず欹ちて聽けば今のは寐言といふ物にやありけん又々ねぼれたる聲音をして「何を馬鹿な事を餘計なお世話ハイ人間は眞實が第一美目より心だとむかしから言ひます學問が無いとて……ムニヤ〱智惠が足らん利口でなからうが……イ、エ新作の妻でございます學問が……ムニヤ〱〱〱

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

「チヤ〳〵お目ざめかと思ッたれ
バ……お慈悲深いお心ゆゑ斯と思
しめしてお出なされても幾分の氣
兼をしてわたしの前でハ何にも被
仰らいで御心配ばッかりわたしが
此樣な不背ものゆゑ行末新さまの
お貌にさはる思はぬ不体裁があり
ハせぬかと常住お氣にかけてお寢
言にまでア、われやこれや思ふに
つけて何日瀧口の御新造さんがわ
たしに言ッた事も虚言でハない新
さまハ大層にお學問が出來てゆく
〳〵ハ立派なお身の上萬一英吉利
からお歸國なされ夫から御緣組を
なさらうものなら何やうなお立派
なお孃さんでもア、わたしとハ提
燈に釣鐘成程勿体ない恥かしい妾
でさへ斯思ふもの新さまのお厭に
おなりなされたのハ思へば悲しい

五十五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

が其筈でもあらう今更新さまを怨むのは愚痴あきらめやう思ひきらうヱヽ思ひきッた諦めた何故マアあのころより無我夢中でフラ〳〵大膽に東京まで單身で出奔をして來たか知らんあの時の悲しさより今の苦しさは十倍百倍生中に義理を思へば出奔をしやう心もでずまた迯てゆく目的もなし我身の悲しさを思ふにつけ姑君のお胸の中ほんにおいとしいお可哀さうなわたしが無ッたらば新作さまもイヤ〳〵さう程にも思しめじがすまいが兎に角不肖なわたしが居るゆゑ幾らかはのやうな取越苦勞餘計なお心配もあそばすのであらうア、諦めやう思ひきらうヱヽ思ひきッた諦めた

諦めてはまた迷ひ思ひきッては又惑ふ諦めては覺たるごとく迷ふては夢みるごとく眠りつ醒つ夜はあけたり鷄の聲と共に起出て下婢は勝手に立働くお民も起出て客の間の掃除ソッと音せぬやう拂ふあるべし漸々に襷をはづせど越野は疲れたるかよく眠れり「モスコシおの儘でソッとして」ト下女に吩附て筆と硯墨を摩りながして半切へサラ〳〵、暫く横とむきて額に手掌その手は何時の間にの目の邊へ下りて覺えず右の手の筆を擲だし聽て急がはしく立上りて厠へ徃んとてや椽側まで出しが直には厠へ入る様子もなし惡紙とりいだして鼻のひなるべし急に横貌を左の手で押へて元の坐所に走り歸りて今しも書かけたる半切を拾ひつ再び椽側へ迯るやうに立去る扨も何の爲に何をするにやあらん下婢は臺所よりチヨと見たれど「チヤマアそゝッかしいお民さまや紙を忘れて敷厠で」トひそかに我は貌にうち笑むのみ

五月も暮て六月の半ともなりぬ越野は初夏の暑氣にあたりて此二日三日は例ならぬ病惱お民は氣を揉みて醫者よ藥よ夜に入れば肩癖晝の中は介抱段々熱も去れば四方山の話つひには相かはらぬ新作の噂これが第一の藥石になんありける「此体では新作にはわたしは逢へぬかも……」「おッかさま緣起でもない來月のすゑごろには佶とお歸りになりますヨ「ヱ來月の末とは……○折から下婢の大きな聲「お醫者さまがお出よなりました

◎家政要報

○侍女の事(前號の續き)　扨て侍女は衣服その他殘るかたなく片附たる後は主婦の浴の仕度をなしまた化粧道具を殘らず取揃へおくべし若し浴後茶或はコフヰーなど呑むべき主婦の習慣あらば主婦の化粧せる間にその用意をなし化粧の濟ミ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

たる時器物などを清潔になして持來るべし家々の家風により侍女の職分大に異るがゆゑに初め雇はれたる時はたゞその家の家風に氣を附けて何事も丁寧信切に取扱ひ假令我がなすべき事にあらざるも骨身を惜まず働く時は終には主婦にも可愛がられその身の仕合となるものなり人は何時も年若くてのみはあられざるが故に何時までも侍女を勉めてのみもまたあられざるべし然るに主人の氣に叶ふやうに勉むれば終にはその家の賄ひ方までも上げ用ひらるゝものなり此心得あるを良き侍女とはいふなりされば主婦も侍女を召使ふには常に此心得を持しむるやう仕向くる事肝要なり扨て侍女を使ふに家によりてはたゞ坐して針仕事をなすに止るものありまた家によりては寢床の掃除までともなさしむるものあり客間の事より勝手向きの事までも働く家にありては侍女は粗造なる草の手袋をはめて働くべし手先の粗れたる手を以て客間の事をなすは甚だ不快なるものなれば侍女たるものは此邊にまでも意を用ふべき事なり　（未完）

○炭の直上　今年に至り薪炭ともに直上せし中にも炭は近頃殊に高くなりて目下の小賣相場は熊野上等丸ど〆（五貫五百目）一俵五十六七錢同角ピン二十七八錢熊野雜木炭（同目）三十三四錢新宮丸ピン（同目）五十一二錢角三十六錢伊豆八幡野上物（四貫目）廿九錢位同平田（三貫六百目）三十錢位同天城（五貫目）廿六錢下等下田物（三貫目）廿錢常陸上等椚（皆掛四貫目）三十五六錢同楢廿七八錢にて昨年暮よりは一割三四分方直上をなし三月下旬に至らざれば昨暮の相場に返るまじとのことなり

○白米小賣相場　去る廿一日より一圓に付（一等米）一斗四升（二等米）一斗四升六合（三等米）一斗五升（四等米）一斗五升九合（五等米）一斗六升六合なり

◎御伽草

○六人連の旅　　散遊亭　圓蝶　述

前號に引續きまして申し上ます、國王は姫君が走競にお負遊ばしましたから約束通り勝つ者の女房に遣らんければならぬが今となッては如何にも殘念である又娘も大層口惜がッて居るから如何かして娘を渡さない工夫はあるまいかと種々にお考へになッて居りましたが姫君に對ッて「宜しい心配するには及ばぬ考へがある」と仰せがありまして御側の衆に何か私語き賜ひ扨て彼の六人の旅人へは明日宮中に於て酒肴を賜は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るといふ事でございますから其日になりまして彼の六人ハ打揃ッて出まゐると役人が案内して窓も柱も戸も壁も床板も皆鉄造りの室へ連て參り此所で六人のものはご馳走になッて居りますと接待掛の役人ハ急に外へ出て俄かに入口の戸も窓の戸も皆閉鎖て仕舞兼て準備の床の下の薪に火を附けましたが是ハ國王の吩附で六人のものを燒き殺す手段でございまする扨て六人のものどもハ斯とハ知らずして頻りに飮だり喰たり致して居りますと段々室内が温くなッて參りますから初めハ變だと思ッて居りましたが段々熱くなッて參りましたから外へ出やうと致しましても戸が開ません彼の武官ハ氣が附て「斯なに熱くなッたのハ走競に勝ッたのを遺恨に思ッて我曹を燒殺す積りに違ひない」と申しますと彼の帽子を眞直に冠ると空氣が寒くなるといふ藝のある男が「燒殺ッても私が居るから心配にハ及びません」といひながら帽子を眞直に冠りますと軈てに空氣が寒くなッて食卓の上にある食物も凍えて仕舞ました、外では役人が一生懸命で焚て居りましたが最早二時間の餘も焚たから内では死だであらうと思ッて戸を開て見まするとと六人のものハ死だ所ではない早く外へ出して暖まらして呉ろといひますから役人ハ驚きましたが仕樣がないから此事を國王に申し上げますと國王も不思議に思召てまた種々とお考へ遊ばしましたが仕方がないから旅人の主人でございまする彼の武官をお召になりまして「娘が走競に負たから其方の妻に遣ふ筈だが其方が望み次第金を遣そから娘を連れて行く事をば廢てハ呉まいか」と御意遊ばしますと彼の武官ハ「私の家來が持てる丈けのお金を下さる事ならば御意に背きますまい」と申し上げまするとこ「然らば左樣致さん」との御意でございますから武官ハ國中の仕立職人を呼び集めて大きな大袋を縫せました此嚢を縫ひまするのに國中の仕立屋が大勢集ッて十四日掛りましたと申す事でございます扨て嚢が出來上りますと彼の大木を根引にした大力者が之を持て金を受取りに參りました國王ハ大層大きな袋であると驚きながらまづ目方三百貫目の金貨を持て參れと御意がございまして十六人掛りで之を運んで參りましたが何致して袋の底も隠れない位でございますから逐々運んで參りましても中々袋に一杯にハなりませんソコで今度ハ二頭の牛で引まする車七千輛で運んで參りましたスルと彼の大力者ハ是ならば可なり一杯になるといひながら牛も車もその儘袋の中へ入れて肩で脊負て出て參りました國王ハ驚いて御意遊ばそれハ兎も謀では往かん今度ハ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

愈々兵力に訴へて取返さんければならぬとございまして二大隊の兵をお差向けになりました、此方では大金を得て本國へ歸らんと六人うち連れて出立致しまするト跡から二大隊の追手が砂烟を立て〻參りますから扨は此金を取返しに來たなと彼の鼻息の強い男が「何十万の軍勢で押かけて來るとも己が鼻息で追返して見せべェ」といひながら鼻息をさせると二大隊の兵は塵埃が風に吹かれるごとく不殘空中へ吹き上げられましたから六人のものは笑ひながら徐々と本國へ歸り武官は彼の大金を五人のものにも分配して大層出世をいたしましたといふ下らぬ長物語で嘸お聞否サお讀苦しい事で恐れ入りました是が前にも申し上ました一人で美い事は出來ない夫々の專門家が集ッて物事成就するので此專門家をよく使ふて行くものが乃ち英雄であるといふお話でございます

○數學問題（答は二月十日まで）

甲乙の二車東西兩府の間に貨物と運送するあり今甲車は一時間に三里乙車は同く二里の割合を以て同時に東府より西府に向て出車せり而して甲は若干時にして既に西府に着し半時を費して再び歸途に就けり以て問ふ東府より何里の處にて乙車に出會すべきや但し東西二府の距離十八里なり

○考へ物の題（答同上）

左の歌は本朝歴史中の人物にて誰と詠せしや

大さろやあら山さくらすゑ〳〵に雪とちりゆく粟津野の原

○前々號數學問題の答式

$$7:175::365:x$$

$$x=\frac{175\times365}{7}=9125$$ 答 九千百廿五字

（答者）根岸中村ひろ子、三田牧野かう女、神田平野常之亟、伊勢山田宇野季次郎、福嶋縣一番生、新潟吉野民、岡山四番町代々木隆、濱松矢部かく

○前々號考へ物の答

源義經（答者）神田平野常之亟、三田牧野耕女史、根岸中村ひろ子、伊勢宇野季次郎、山梨田中キチヨ、同松村イシ、同小澤シツカ、福島一番生、新潟吉野民、備前岡山堤銈太郎、濱松矢部かく

◎寄書

○外國語學の必要　　東京　今田　つね

交際上外國語學の必要なる事は今更喋々するに及ばざる事ながら一時大に世の感動を惹起したる彼のノルマントン號事件に於て益々其必要なるを感ずるなり彼の船長等がいふ所を以てそれば日本人中一人も英語に通ずるものなきが故危難救助の意を通ずるに由なかりしといへり果して其旨の如かりしや否は知るを得ざれども乘客中語學に通ずる者ありしならば船長等と共に生命を全ふせし事ならんと追懷して語學の啻に平時交際上に必要なるのみに非ずと思ふなり世の姉妹達よゆめ〳〵語學の勉强に怠り給ひそ〔編者曰す廣嶋縣岡田ユカ君の投書も是と略同趣意なるを以て記載致さず〕

五十九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

男女勸學新誌

毎月一回發兌定價一冊金十錢
十冊前金九十錢郵便税金一錢

學問の大切なるハ男女を撰はず然れども世間通俗平易にして男女双方の開智に供するの新誌甚だ稀なり是に於て弊社今般男女勸學新誌を發行して男となく女となく讀んで以て解し易く且つ最も有益なる論説記事を集め聊か世人開智の一端に供せんとす即ち其第一號の目次ハ左の如し●論説○發行の主意○文學會員に告ぐ福澤先生○日本人種の改良論ドクトルベルツ先生○商人の教育水城居士○文明人は多能なるべし幽堂學人●雜報○女子教育會○專修學校○大學卒業生◎植學研究○巴里劇場の書景○雜説○民業論扶桑山人○租税の説演國博士○フヲンスタイン氏○人口の統計●雜記○三田演説會鵜閒散史○西洋演劇婦人の凱歌●寄書數件●廣告○小學普通作文書○論語講義○其他數件●附錄教育法令

發兌本局 東京日本橋區元大坂町 勸學新誌社
大賣捌所 同元大坂町拾一番地 法木書屋

●講談演說集第一冊再版廣告

●速記叢書 講談演說集第一冊 定價郵税共特別割引拾四錢●郵券代用妨げなし

●目次●緒言●漢字やぶり 帝國文科大學長外山正一君●地球の位置 帝國理科大學教授東京物理學校長寺尾壽君●節酒會を論ず 前統計院大書記官杉亨二君●社會外に道德なし 元老院議官東京學士會院會長前東京大學總理加藤弘之君

右初版賣切候に付久しく御求めに應し難かりし處今回漸く再版出來候に付御注文願ひ奉り候拜具

●附言第四冊(定價郵税共十四錢)三月迄に出版可仕候

發賣●東京日本橋通三丁目丸善書店●東京本町三丁目瑞穗屋
●東京馬喰町二丁目石川治兵衛●東京神田淡路町巖々堂

●教育時論

毎月三回發兌 定價 一冊金五錢 十冊金四十八錢 廿冊金九十錢 郵税毎冊一錢ツヽ

本誌ハ理學的ノ教育ヲ以テ之ヲ今日ノ實業ニ導入レ且ツ開發教授ノ主義ニヨリテ高等小學校尋常小學校及ヒ無等級學校師範學校ニ應用スベキ教授法ヲ研究センコトヲ主眼トシ廣ク內外教育ノ實況ヲ報道シ家庭教育社會教育ノ一班ヲ掲ケ英文和文歌詞等ノ風韻ヲ養フニ足ルヘキモノヲ載セ教育家ノ輿論學術家ノ學說ヲ錄シ社說ヲ掲ケテ時事ヲ切論セリ故ニ常ニ本誌ヲ閱讀スルモノハ唯ニ教育上ノ大勢ニ詳通スルノミナラス併テ教育上學術上ノ學說ニ通曉シ所謂時勢ニ適シ學理ニ通スル必用ノ教育家タルヘキコト明カナリ若シ夫本誌カ從來世人ニ得タル價直ト信用トノ如キハ世自ラ定論アリ今敢テ自ラ言ハス

●諸取次

教育家ノ便ヲ謀リ今後弊社ニ於テ左ニ掲クル諸品ノ取次ヲ爲ス

一 諸般書籍類
一 博物標品類
一 理化學器械類
一 教授上諸器具類

東京下谷區練塀町拾四番地 開發社

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區內郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵便爲替郵券代用ハ壹錢切手ニて一割増し●郵券ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と本舍へ御送附可被下候但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 續文舍

持主兼印刷人 松本義弘
編輯人 初鹿野錦五郎

大賣捌 東京芝區愛宕町一丁目三番地 修正堂
同 神田區淡路町 巖々堂
同 神田區佐柄木町一番地 東海堂
同 大坂備後町四丁目 岡嶋文店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY